

ディスクロージャー優良企業受賞に寄せて

オムロン株式会社 執行役員常務 グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部長 安藤 聡

当社は電機・精密機器部門において2015年度のディスクロージャー優良企業に選定されました。私がチーフIRオフィサーに就任した11年6月以降の5年間で1年おきに同賞をいただいたこととなります。特に私がうれしいのは、IRや情報開示に定評のあるグローバル企業がひしめく同部門において、かつ日本版コーポレートガバナンス・コード導入のエポックメイキングな年に、総合得点91点という過去例をみない高得点の評価を受けたことです。これは、中長期の経営情報を自発的に開示し、また国内外の工場見学や技術説明会など投資家・アナリストの皆さまへ多面的な機会を提供したことを評価していただいたものと受け止めています。

14年2月の日本版ステュワードシップ・コード導入以降、既に200社を超える機関投資家が同コードを採択しており、急速に投資家の行動が変わりつつあると実感しています。しかしながら、劇的に変化したとは言えないのも事実です。なぜなら、建設的な対話の先にある「エンゲージメント」には、まず企業の経営情報の開示が必要条件だからであり、その上で機関投資家が投資先企業を長期視点で分析・評価し、企業価値向上に真に役立つ提案を行うことが十分条件になるからです。企業が果たすコーポレートガバナンス責任と投資家が果たすステュワードシップ責任が相乗効果を発揮するには今しばらく時間を要しますし、現状では企業も投資家も二極化しています。このような状況の中、当社はIR活動のフロントランナーとして以下の三つの取組みを意識したエンゲージメントを実践してきました。

- ①ターゲティングの手法を駆使して能動的なIR活動を展開する
- ②中長期の経営情報を開示して企業価値創造ストーリーを訴求する
- ③「統合レポート」発行を通じてESGを含めた経営情報を積極的に開示する

そして、企業がコーポレートガバナンス責任を果たすには「持続的に稼ぐ力を発揮して株主・投資家の期待に応える」とともに「ステークホルダーとの信頼関係を構築するために誠実な経営を実践する」ことが極めて重要であり、その鍵は次に述べる三つのポイントにあります。

一つ目は形ではなく質を追求したコーポレートガバナンスであり、建前（形）と本音（質）を使い分けません。二つ目は統合思考に基づく経営の実践であり、企業理念・経営のモットー・コーポレートガバナンス・長期視点の経営・事業価値評価などの経営に必須の要素を有機的に結び付けることです。二つのコードの導入やGPIFによるPRI署名などに伴い、企業に対する統合的思考に基づくESG情報開示の要請が今後いっそう高まることは確実だからです。三つ目は広義のガバナンスであるマネジメントシステムです。具体的には、定性・定量の長期ビジョン、それを実現するための中期経営計画、更に長期視点の経営を実践するための中期業績目標に連動したインセンティブ報酬を持つことです。

今回の受賞を励みとし、企業価値向上の取組みを一層強化していきます。引き続き格別のご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。